

日本地質学会第121年学術大会（2014鹿児島大会）講演プログラム（口頭）

■9月14日（日）午前

会場	第1会場（111）	第2会場（121）	第3会場（131）
	R6. ジオパーク（Geopark）	S2. 津波ハザードとリスク：地質記録の活用	R4. 変成岩とテクトニクス
	座長：高木秀雄（1-4）、天野一男（5-9）	座長：後藤和久（1-4）、藤原 治（5-6）	座長：桑谷 立（1-4）、中野伸彦（5-8）、青矢睦月（9-11）
8：45			
9：00	R6-O-1（招待）★ ジオパーク認定に向けた三島村の取り組み。大岩根 尚	S2-O-1（招待） Size and type of the 869 Jogan earthquake inferred from tsunami simulation and deposits. Kenji SATAKE・Yuichi NAMEGAYA	R4-O-1★ 東北日本沈み込みプレート境界断層深部のレオロジー。清水以知子
9：30	R6-O-2 南三陸の巨石めぐり。永広昌之・南三陸海岸ジオパーク準備会	S2-O-2（招待） 9：25 The role of submarine landslides in the Great Eastern Japan tsunami of 2011. Tappin D. R.	R4-O-2 9：00 四国三波川帯の大歩危ユニット南部を横切る八丁山断層の非存在。青矢睦月
9：45	R6-O-3 ジオツアー開発における持続的な地質学研究発展の必要性。白井孝明・古澤加奈	S2-O-3（招待） 9：50 Tsunami sedimentology for disaster science. Daisuke SUGAWARA	R4-O-3★ 9：15 炭質物ラマン温度計を用いた三波川帯の温度構造の検討：関東山地と四国中央部の比較。頼瀬佑衣・清水以知子・苗村康輔
10：00	R6-O-4 ジオパークにおける住民参加型ジオパークモデルコース策定の効果と課題。松原典孝・先山 徹	S2-O-4 10：15 休憩	R4-O-4 9：30 モンゴル・アルタイ山脈に認められる時計回りと反時計回りの変成履歴とその年代学的特徴。中野伸彦・小山内康人・大和田正明・Satish-Kumar M.・足立達朗・吉本 紋・Jargalan Sereenen・Syeryekhan Kundyz
10：15	R6-O-5 Web版 新岐阜県地質図『ジオランドぎふ』～ジオパーク構想への素材の開発～。小井土由光・棚瀬充史・加納 隆・小嶋智・笹尾英嗣・鹿野勘次・木澤慶和	S2-O-5（招待） 10：50 What can geochemistry tell us about tsunamis? Catherine CHAGUE-GOFF	R4-O-5 9：45 冷たい沈み込み場（ca. 15°C/km）で形成された古生代後期のローソン石青色片岩体の地質。平島崇男・佐藤永太郎・藤本善航・似吹 大・上村謙一郎
10：30	R6-O-6 大学教養科目としてのジオパーク学入門の実践。川村教一	S2-O-6（招待） 11：15 Diatom fossil analysis as an aid for paleoseismology. Yuki SAWAI	R4-O-6 10：00 九州・八代地域の箱石・飛石サブユニットの低変成度岩の白雲母K-Ar年代。佐藤永太郎・平島崇男・藤本善航・上村謙一郎
10：45	R6-O-7 ジオパークを活用した早稲田大学の教育活動。高木秀雄		R4-O-7 10：15 フェンジャイトの過剰アルゴンと閉止温度。板谷徹丸
11：00	R6-O-8 三陸ジオパークにおける教育普及活動。斎 宏行・下向武文		R4-O-8★ 10：30 高温型変成帯形成の地殻ダイナミクスと北部九州深成岩・変成岩U-Pb年代。宮崎一博・松浦浩久・檀原 徹・岩野英樹・平田岳史
11：15	R6-O-9 活断層防災フィールドミュージアム構想とアクティブテクトニクス。竹内 章		R4-O-9 10：45 スリランカ・Highland Complex中央部に分布する変成岩のLA-ICP-MSジルコンU-Pb年代。北野一平・小山内康人・中野伸彦・足立達朗・Malaviarachchi Sanjeeva P.K.・Dharmapriya P.L.
			R4-O-10 11：00 変成岩の粒径グレーディングとリーゼガングバンド。鳥海光弘・福山繭子
			R4-O-11 11：15 東南極リュツォ・ホルム岩体オングル島のザクロ石周囲にみられるコロナの微細構造。島田麻美・池田 剛
			R4-O-12（取消） 11：30

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、レギュラーセッション（R）のそれぞれに、ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌p.(11)を参照）。（招待）：招待講演。（招待：国際）：学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。

日本地質学会第121年学術大会（2014鹿児島大会）講演プログラム（口頭）

■9月14日（日）午前

会場	第4会場（122）	第5会場（124）	第6会場（125）
	R3. 噴火・火山発達史と噴出物	R8. 海洋地質	T7. 古生代から中生代への地球環境進
	座長：田島靖久（1-2）、工藤 崇（3-4）	座長：坂本 泉（1-3）、板木拓也（4-7）、芦 寿一郎（8-11）	座長：尾上哲治（1-4）、高橋 聡（5-9）
8：45	8：45 R3-O-1 十和田火山、青楓山付近における先カルデラ期～カルデラ形成期噴出物の層序。工藤 崇	9：00 R8-O-1 終端堆積盆に記録された2004年紀伊半島南東沖地震時の地震性堆積物。芦寿一郎・大村亜希子・山口飛鳥・中村祐貴・福地里菜・入野智久・村山雅史・池原 研・中村恭之	9：00 T7-O-1 ペルム紀末大量絶滅後の海洋中必須元素の減少。高橋 聡・山崎慎一・土谷範芳・小川泰正・木村和彦・海保邦夫・吉田武義
	9：00 R3-O-2 ピンクタフの噴出口カルデラ。木戸道男・英彦山研グループ	9：15 R8-O-2 XRFコアスカナーによる地震性タービダイト識別の試み。岩井雅夫・小林宗誠・松崎琢也・山本裕二	9：15 T7-O-2 中国南部煤山のペルム紀末大量絶滅期層準堆積岩のケロジェンの熱化学分解分析による陸域生態系変動の復元。沢田 健・緒方秀仁・海保邦夫
	9：15 R3-O-3 霧島火山の最近1万年間の活動期について。田島靖久	9：30 R8-O-3 日本海溝陸側斜面のタービダイト堆積年代。宇佐見和子・池原 研・金松敏也・Mchugh Cecilia	9：30 T7-O-3 宮崎県高千穂町上村のペルム系・三疊系炭酸塩岩に記録された酸化還元環境と生物多様性。齊藤諒介・海保邦夫・佐野弘好
	9：30 R3-O-4 桜島火山大正溶岩中の集合斑晶一成因とマグマ溜りの構造一。高橋正樹・斎藤陽子・西尾 光・安井真也	9：45 R8-O-4 岩手県三陸沿岸域における3.11津波痕跡調査概報。坂本 泉・横山由香・八木雅俊・飯島さつき・根元謙次・藤巻三樹雄・秋山幸秀・笠谷貴史・藤原義弘	9：45 T7-O-4（招待） 古生代・中生代（P-T）境界：顕生代の分水嶺。磯崎行雄
	R21. 地学教育・地学史	10：00 R8-O-5 岩手県広田湾で採取した13HV8コアの珪藻分析。嵯峨山積・坂本 泉・横山由香・井上智仁・飯島さつき・八木雅俊	10：15 T7-O-5 前期三疊紀コノドントの古生態。上松佐知子・指田勝男
	座長：平田大二（1-2）、矢鳥道子（3-7）	10：15 R8-O-6 透水性からみた珪質泥岩の水理特性—日本海溝およびアリューシャン海溝堆積物での例—。小嶋孝徳・斎藤実篤・谷川 亘・須藤 斎・芦 寿一郎	10：45 T7-O-6 ニュージーランド、アローロックスにおける深海相Smithian～lowest Anisianの岩相層序・コノドント生層序：Spathian 海洋底無酸素事変。山北 聡・竹村厚司・相田吉昭・堀 利栄・高橋 聡・池田昌之・Sporli K. Bernhard・CampbellHamish J.
	10：00 R21-O-1（招待：国際）★ The Geological Society of London – past, present and future. LORD Alan・BILHAM Nic	10：30 R8-O-7 北大西洋の亜極前線下に発達する珪藻軟泥と浮遊性有孔虫殻形態の変遷に基づく第四紀後期の亜極循環の復元。山崎 誠・嶋田智恵子・池原 実	11：00 T7-O-7 三疊紀後期パンサラサ海におけるコノドント・放射虫化石層序と岩相変化。山下大輔・安田知佳・佐藤峰南・尾上哲治
	10：15 R21-O-2 エドムント・ナウマン（1854-1927）と富士山。矢鳥道子	10：45 R8-O-8 西部太平洋の掘削へ向けた新たな取り組み：Western Pacific Drilling（WEPAD）。板木拓也・WEPADワーキンググループ	11：15 T7-O-8 秩父帯津久見地域に分布する中部三疊系層状チャートのサイクル層序。曾田勝仁・尾上哲治・池田昌之
	10：30 R21-O-3 博物館の常設展示を活用した地球史連続講座の試み—地学リテラシー涵養のための学習プログラムの展開。平田大二・五島政一	11：00 R8-O-9 山陰～九州北方沖日本海の第四紀断層とネオテクトニクス。岡村行信・井上卓彦・阿部信太郎	11：30 T7-O-9 中生代のミランコビッチサイクルを用いた天文学的年代層序と古環境学的示唆：犬山地域層状チャートの例。池田昌之・堀利栄・多田隆治
	10：45 R21-O-4 2013年度に別海町で実施した2件のアウトリーチ活動の報告：別海小学校出前授業および普及講演会「晩秋の自然を楽しむ音楽と語り」。重野聖之・七山 太・中山 陸・辻 隆史・佐藤 慎・池田保夫・石渡一人	11：15 R8-O-10 九州南方沖・鬼界カルデラの中央高地の構造と成因。池上郁彦・清川昌一・大岩根尚・前野 深・佐野有司・中村恭之・亀尾 桂・鹿児島抄悟	
	11：00 R21-O-5 地学教科書からみた教科書の役割。浅野俊雄	11：30 R8-O-11 浅海熱水域薩摩硫黄島における、鉄とシリカに富むマウンドの構造解析とバクテリアとの関連性。倉富 隆・清川昌一・池原 実・後藤秀作・星野辰彦・池上郁彦・蓑和雄人	
	11：15 R21-O-6 野外科学の手法を踏まえた、川喜田（1967）W型の研究過程に基づく体系的な地学の学習の構築と実践の試み：事例研究（2）。松田義章・五島政一		
	11：30 R21-O-7 SSH指定校に勤務した（する）教師の役割。川勝和哉・岩本有加		

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、レギュラーセッション（R）のそれぞれに、ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌p.11）を参照。（招待）：招待講演。（招待：国際）：学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。

日本地質学会第121年学術大会（2014鹿児島大会）講演プログラム（口頭）

■9月14日（日）午前

会場	第7会場 (212/213)	
	R19. 環境地質	
	座長：田村嘉之 (1-4), 香川 淳 (5-8), 吉田 剛 (9-12)	
8:45	8:45 上田盆地の地形発達史から特定された上田泥流の起源. 富樫均 ・横山 裕	R19-O-1
	9:00 2013年における桜島火山ガス高濃度事象. 坂本昌弥 ・木下紀正	R19-O-2
	9:15 汽水域における ²²⁴ Ra/ ²²⁸ Ra比の分布特性と宍道湖の湖水の動き. 野村律夫 ・井上睦夫・小藤久毅	R19-O-3
	9:30 東北日本沿岸における最終間氷期以降の地殻変動速度—新潟地震と東北地方太平洋沖地震にともなう沈降現象に関連して—. 仲川隆夫	R19-O-4
	9:45 仙台平野の歴史津波堆積物の年代測定と地球化学的判別手法の開発. 細田憲弘 ・渡邊隆広・中村俊夫・土屋範芳	R19-O-5
	10:00 法地質学的資料中の粒子の分析例. 杉田律子	R19-O-6
	10:15 不適正処分された産業廃棄物最終処分場における地下水汚染機構の解明（旧民間産業廃棄物安定型最終処分場の例）. 和田卓也 ・川端祥浩・湯浅 忠・中村豊久	R19-O-7
	10:30 養老川中流域観測井の孔内地下水の温度—妙香泥層上面付近深度の地下水温度変化, 2013年の隔月測定結果—. 楠田 隆 ・古野邦雄・香川 淳・吉田 剛	R19-O-8
	10:45 千葉県観測井における孔内地下水の深度方向温度分布. 古野邦雄 ・香川 淳・吉田 剛・風岡 修・酒井 豊・加藤晶子・楠田 隆	R19-O-9
	11:00 千葉県北東部における硝酸性窒素による地下水汚染調査事例. 岩井久美子 ・田村嘉之・吉田 剛・酒井 豊・下里 望	R19-O-10
	11:15 下総台地における窒素負荷源と負荷年代の推定. 田村嘉之 ・岩井久美子・NPO法人水環境研究所	R19-O-11
	11:30 人工地層の汚染原因を解決する単元調査法. 上砂正一	R19-O-12

第8会場 (211)		
T8. 超深度掘削による新次元の地球科学		
座長：辻 健 (1-5), 川端訓代 (6-12)		
8:45	8:45 超深度掘削への期待. 山田泰広	T8-O-1
9:00	9:00 超深度ライザー掘削によるカッティングス試料から何がわかるのか?—IODP第348次研究航海の経験をもとに—. 廣瀬丈洋 ・北村真奈美・Harold Tobin・Demian Saffer	T8-O-2 (招待) ★
9:15	9:15 ライザー掘削によるカッティングス試料を用いた観察, 分析結果とその有用性. 川端訓代 ・坂口有人	T8-O-3
9:30	9:30 IODP第348次航海（南海トラフ地震発生帯掘削）におけるカッティングスによる岩相評価の有用性. 福地里菜 ・山口飛鳥・山本由弦・芦寿一郎・第348次航海一同	T8-O-4
9:45	9:45 IODP Exp. 348ライザー掘削から明らかになったスプレー断層上盤の応力状態と微小変形. 山本由弦 ・林 為人・山本裕二・曾根大貴・Henry Pierre・大坪 誠・Brown Kevin・Crespo-Blanc Ana・Expedition 348研究者	T8-O-5
10:00	10:00 掘削トルクデータに基づいた高速剪断強度断面の作成. 氏家恒太郎 ・井上朝哉	T8-O-6
10:15	10:15 南海トラフ分岐断層の間隙水圧分布. 辻 健	T8-O-7
10:30	10:30 ライザー掘削でみられたコアリングディスターバンス—IODP Exp. 337下北沖航海の例—. 村山雅史 ・森田澄人・山田泰広・久保雄介・Hinrichs, K-U・稲垣史生	T8-O-8
10:45	10:45 三陸沖堆積盆地の熱・力学物性と海底下深部の温度の推定. 谷川 亘 ・多田井修・林 為人・森田澄人・山田泰広・真田佳典・久保雄介・稲垣史生	T8-O-9
11:00	11:00 超モホール計画. 阿部なつ江 ・森下知晃・道林克禎	T8-O-10★
11:15	11:15 メカ・モホール（モホール計画による地殻の応力断面観測）. 坂口有人	T8-O-11
11:30	11:30 ニュージーランド・スロースリップ掘削計画. 伊藤喜宏 ・小平秀一・望月公廣・Laura Wallace・Demian Saffer・Stuart Henrys・Phil Barnes・Mike Underwood・Nathan Bangs	T8-O-12★

■ MEMO ■

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p.(11) を参照）。（招待）：招待講演。（招待：国際）：学术交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。

日本地質学会第 121 年学術大会 (2014 鹿児島大会) 講演プログラム (口頭)

■ 9月 14 日 (日) 午後

会場	第 2 会場 (121)	第 3 会場 (131)	第 4 会場 (122)
	S2. 津波ハザードとリスク：地質記録の活用	R4. 変成岩とテクトニクス	R12. 石油・石炭地質学と有機地球化学
	座長：藤原 治 (7), David Tappin (8-10), 藤野滋弘 (11-14)	座長：額綱佑衣 (13-15), 河上哲生 (16-19)	座長：三瓶良和 (1-4), 河村知徳 (5-8), 金子信行 (9-12)
14 : 30	14 : 30 S2-O-7 Recurrence intervals of tsunamis associated with earthquakes at the Nankai Trough may vary over time and place. Shigehiro FUJINO	14 : 30 R4-O-13 領家変成岩中に存在する流体起源の珪線石の多様な産状. 天野早織 ・河上哲生	14 : 30 R12-O-1 (招待) ★ 宮崎県および沖縄県の水溶性天然ガス. 加藤 進
	14 : 55 S2-O-8 (招待) Necessity of Geology to Validate the Anticipated Great Nankai Trough Earthquake Model. Toshitaka BABA	14 : 45 R4-O-14 ネパールヒマラヤ, ダンクッタ地域MCTゾーンにおける変成同時のH ₂ O流体流入と含電気石優白質花崗岩の成因論. 河上哲生 ・酒井治孝・佐藤活志	15 : 00 R12-O-2 微生物起源のメタンの生成と移動—地球化学的データによる検証—. 金子信行 ・前川竜男・猪狩俊一郎
	15 : 20 S2-O-9 Identification of tsunami boulders in the Ryukyu Islands, Japan and their potential use for long-term risk assessment. Kazuhisa GOTO	15 : 00 R4-O-15★ 複数段階の高濃度塩水活動の意義—東南極セル・ロンダーネ山地プラットフォームの例. 東野文子 ・河上哲生・土屋範芳・サティシュクマール・石川正弘・グランサム ジェフ	15 : 15 R12-O-3 (招待) ★ 島弧-背弧系に関連した海底熱水活動による熱水性石油の生成条件. 山中寿朗 ・奥西勇介・柏村朋紀・赤司裕紀
	15 : 45 休憩	15 : 15 R4-O-16★ 沈み込み帯深部におけるマンツルの加水様式：北海道幌加内地域での検討. 葛西竹恒 ・植田勇人	15 : 45 R12-O-4 ハプト藻の熱熱成実験による藻類脂質の分解・続成過程の検討. 阿部涼平 ・沢田 健・中村英人・新家弘也・鈴木石根・白岩善博
	15 : 55 S2-O-10 (招待) The Impact of extreme storm waves on rock coasts. J. D. HANSOM ・A. M. HALL	15 : 30 R4-O-17★ かんらん石-斜長石-水系における蛇紋岩化作用の進行と物質移動. 大柳良介 ・岡本 敦・土屋範芳	16 : 00 R12-O-5 ケロジェンの熱化学分解分析によるジオマクロ分子を構成する分子ユニット組成の評価. 盛 貴瑛 ・緒方秀仁・沢田 健
	16 : 20 S2-O-11 (招待) Study on the numerical simulation of tsunami by debris avalanche- Case study of Mt.Fuji and Suruga Bay. Kenji HARADA	15 : 45 R4-O-18 次元圧縮技術による高次元地球化学データからの変成作用プロセス抽出. 桑谷 立 ・宇野正起	16 : 15 R12-O-6 東北日本弧の地体構造形成を理解する上での福島県沖阿武隈リッジの形態および構造地質学的特徴の意義. 荒戸裕之 ・千代延俊
	16 : 45 S2-O-12 (招待) Spatial distribution and sedimentary features of near-source tsunami deposits of volcanic origin. Yuichi NISHIMURA	16 : 00 R4-O-19 ヘグボマイト類の高温高压実験. 志村俊昭 ・足立達朗・中野伸彦・小山内康人・川崎智佑	16 : 30 R12-O-7 福島沖阿武隈リッジの断層の形態と特徴. 千代延俊 ・荒戸裕之
	17 : 10 S2-O-13 (招待) Geological records of 1792 Unzen earthquake and tsunami. Toshihiko ICHIHARA		16 : 45 R12-O-8 白亜系双葉層群芦沢層の堆積物および小型植物化石の結合態アルキル脂質分析：炭質物濃集層の成因. 宮田遊磨 ・沢田 健・中村英人・高橋正道
	17 : 35 S2-O-14 (招待) Kinematics and movement mechanisms of volcano collapse landslides: implications for tsunami generation models. Simon DAY ・Steven WARD	R2. 岩石・鉱物・鉱床学一般	17 : 00 R12-O-9 新潟県佐渡沖, 基礎試錐「上越海丘」による上越海盆地域の層序と岩相. 山科起行 ・大川直樹・城戸麻千子・今堀誠一・柿崎聡・三輪美智子・千代延仁子・小布施明子・平松 力・佐藤大地・馬場 敬
		座長：齊藤 哲 (1-4), 壺井基裕 (5-7)	17 : 15 R12-O-10 秋田県由利原地域の玄武岩の酸処理に係る実験的検討. 大久保進 ・平野ひとみ・杉山 裕・辻 隆司
		16 : 15 R2-O-1 (招待：国際) ★ Geology and ore mineralization at Oyu Tolgoi deposit, southern Mongolia. Tumur-Ochir MUNKBHAT	17 : 30 R12-O-11 石狩平野北部における砂岩貯留層分布の推定. 河村知徳
		16 : 30 R2-O-2 西南日本のエピソードな花崗岩マグマティズムと上部地殻の形成・再編. 中島 隆 ・高橋正樹・今岡照喜・志村俊昭	17 : 45 R12-O-12 石狩層群泥質岩の高等植物ワックス素同位体組成 から見た始新世の海水準変動. 佐藤 光 ・鈴木徳行
		16 : 45 R2-O-3 南部北上山地, 水上花崗岩類の岩石学的研究. 佐々木 惇 ・土谷信高・足立達朗・中野伸彦・小山内康人	
		17 : 00 R2-O-4 新潟県米山-尾神岳火山岩類のK-Ar年代と岩石化学的研究. 大場孝信 ・藤塚 大	
		17 : 15 R2-O-5 阿武隈変成帯中に露出する沈み込み帯域オフィオライトの断片. 佐藤勇輝 ・石渡 明	
		17 : 30 R2-O-6 ヘス・ディーブ・リフトのかんらん石斑れい岩類およびかんらん岩類における高温変質作用. 野坂俊夫 ・Meyer Romain・Wintsch Robert	
		17 : 45 R2-O-7 地球鉱物集合体の特徴：ダイヤモンド炭素物質の形成. 三浦保範	

※講演番号は, シンポジウム (S), トピックセッション (T), レギュラーセッション (R) のそれぞれに, ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合, 講演要旨を正しいものとします.

※太字氏名: 代表発表者. ★印: ハイライト (本誌 p.(11) を参照). (招待): 招待講演. (招待: 国際): 学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演.

日本地質学会第 121 年学術大会 (2014 鹿児島大会) 講演プログラム (口頭)

■ 9月 14 日 (日) 午後

会場	第 5 会場 (124)	第 6 会場 (125)	第 7 会場 (212/213)
	R8. 海洋地質	T7. 古生代から中生代への地球環境進	R19. 環境地質
	座長：芦 寿一郎 (12), 小原泰彦 (13-16)	座長：池田昌之 (10-13), 上松佐知子 (14-16)	座長：岩井久美子 (13-15), 川辺孝幸 (16-17)
14:30	14:30 R8-O-12 日本の大陸棚画定調査と延長大陸棚の地球科学的特徴. 小原泰彦 ・加藤幸弘・吉田 剛・西村 昭・岸本清行・湯浅真人・石塚 治・高橋成実・海宝由佳・小平秀一・塩川 智	14:30 T7-O-10 テチス・パンサラサ海の上部三畳系石灰岩を対象としたイジェクタ堆積物の探索. 尾上哲治 ・山下大輔・富永隆志・佐藤峰南・白井直樹・海老原充・MissoniSigrid・GawlickHans-Jürgen	14:30 R19-O-13 「地盤安心マップ」の公開による不動産エンドユーザーに対する地盤沈下・地盤災害リスク情報の「見える化」促進. 横山芳春 ・大久保拓郎
	14:45 R8-O-13 (招待) ★ 国連海洋法による大陸棚限界委員会と日本の延長大陸棚. 浦辺徹郎	14:45 T7-O-11 三畳紀後期層状チャートの古地磁気学的研究: 初生磁化の古地磁気層序と赤道域古緯度. 宇野康司 ・山下大輔・尾上哲治・上原大生	14:45 R19-O-14 2011年東北地方太平洋沖地震における完新統の地層収縮. 香川淳 ・古野邦雄・楠田 隆・酒井 豊・吉田 剛・荻津 達・風岡 修
	15:15 R8-O-14 (招待) ★ 背弧海盆拡大とプリューム活動の関連—西フィリピン海盆の拡大史—. 石塚 治 ・Taylor Rex N.・小原泰彦・湯浅真人	15:00 T7-O-12 三畳紀後期隕石衝突イベントにおける層状チャートの主要・微量元素組成. 佐藤峰南 ・尾上哲治・高谷雄太郎・藤永公一郎・加藤泰浩・野崎達生・清川昌一	15:00 R19-O-15 液化化発生地における地中地震動観測施設による地震動と間隙水圧の観測. 酒井 豊 ・荻津 達・亀山 瞬・吉田 剛・風岡 修
	15:45 R8-O-15 中期中新世の日本海で形成された玄武岩質海底火山の規模と層相変化の例. 藤林紀枝	15:15 T7-O-13 スロバキアKardolinaセクションの三畳紀末石灰岩に記録された炭素同位体比変動. 白水秀子 ・Jozef Michalik・日下宗一郎・山下勝行・山下美沙・山下大輔・尾上哲治	15:15 R19-O-16 2011年東北地方太平洋沖地震時に東京湾岸埋立地に発生した液化化—流動化現象のメカニズム. 一新しい地質調査手法である地層断面調査の例—. 風岡 修 ・亀山 瞬・森崎正昭・重野聖之・鈴木喜之・香川 淳・吉田 剛・木村満男・酒井 豊・小倉孝之
	16:00 R8-O-16 相模湾から新たに発見された三種類の玄武岩類のテクトニクス—火山とシート状溶岩と礫層としての玄武岩—. 藤岡換太郎 ・森 慎一・高橋直樹・平田大二・大島光春・柴田健一郎・満澤巨彦・西川 徹・大橋みさき・KO-OHO-Oの会	15:30 T7-O-14 トリアス紀中期からジュラ紀前期における超海洋パンサラサの酸化還元状態の変遷: 深海堆積物中の酸化還元鋭敏元素からの推定. 藤崎 渉 ・澤木佑介・沢田 輝・佐藤友彦・山本伸次・赤堀良光・柳井修一・丸山茂徳	15:30 R19-O-17 Differences between liquefaction-fluidization and ground wave (Jinami) geohazards in each reclaimed land facing San Francisco bay and Tokyo Bay. 楡井 久
		15:45 T7-O-15 美濃帯坂祝セクションの層状チャートから復元した三畳紀海水Os同位体比変動. 野崎達生 ・二階堂崇・高谷雄太郎・鈴木勝彦・加藤泰浩・尾上哲治・佐藤峰南・松岡 篤	
		16:00 T7-O-16 (招待) 三畳紀—ジュラ紀境界変動—中和される海洋モデルの提唱. 堀利栄	
			R24. 原子力と地質科学
			座長：吉田英一 (1-4), 渡部芳夫 (5-8)
			15:45 R24-O-1 (招待) ★ 地球科学の社会的役割とその限界. 鷺谷 威
			16:15 R24-O-2 断層活動における地質学的時間スケールで考慮すべき稀類度事象と将来予測での不確実性. 大坪 誠 ・宮川歩夢
			16:30 R24-O-3 高速増殖原型炉もんじゅ敷地内破砕帯の調査結果. 石丸恒存 ・島田耕史・末岡 茂・安江健一・丹羽正和・梅田浩司
			16:45 R24-O-4 断層が地質環境に及ぼす影響に関する検討—瑞浪超深地層研究所における事例—. 笹尾英嗣 ・石橋正祐紀・窪島光志・村上裕晃
			17:00 R24-O-5 瑞浪超深地層研究所深部地下水中の微生物活動による硫酸還元反応と硫黄同位体分別. 廣田明成 ・東郷洋子・伊藤一誠・鈴木庸平・福田朱里・今野祐多・角皆 潤・小松大祐・長尾誠也・岩月輝希
			17:15 R24-O-6 フィリピン国・ルソン島北西部に分布するベントナイトのアルカリ変質反応による地球化学的・鉱物学的特性. 山川 稔 ・藤井直樹・佐藤 努
			17:30 R24-O-7 四方十帯日向層群における割れ目および割れ目充填鉱物の生成過程とその透水性. 大野卓也 ・吉田英一・大嶋章浩
			17:45 R24-O-8 地下環境中の鉄酸化物と地層処分: 地下水シナリオへの影響とその検討. 吉田英一 ・山本鋼志

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※太字氏名: 代表発表者。★印: ハイライト (本誌 p.(11) を参照)。(招待): 招待講演。(招待: 国際): 学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。

■9月14日（日）午後

会場	第8会場（211）	
	R14. 沈み込み帯・陸上付加体	
	座長：氏家恒太郎（1-4）、坂口有人（5-8）、橋本善孝（9-12）	
14:30	14:30	R14-O-1（招待）★ 深部微動が明らかにする潮汐のプレート運動への影響. 井出 哲・田中愛幸
	15:00	R14-O-2 沈み込み帯の温度構造およびメルトと水の分布. 石井和彦
	15:15	R14-O-3 沈み込み帯浅部・塑性-脆性遷移帯の地質学的産状. 橋本善孝・山野奈津子
	15:30	R14-O-4 四国西部四万十帯トラバース. 大橋聖和・金川久一
	15:45	R14-O-5 四万十帯牟岐メランジュの断層岩に含まれる雲母粘土鉱物のK-Ar年代. 藤内智士・伊藤 駿・橋本善孝・田村 肇
	16:00	R14-O-6（招待）★ InSAR画像の地質学的解釈：巨大地震に伴う火山の沈降. 高田陽一郎
	16:30	R14-O-7 地震時層流・乱流発生に関する地質学的・実験的証拠. 氏家恒太郎・斎藤 翼・堤 昭人
	16:45	R14-O-8 房総半島の中新統付加体システムから見いだされたスプレー断層（out-of-sequence thrust）の構造的特徴. 山本由弦・千代延俊・濱田洋平・神谷奈々・斎藤実篤・山田泰広
	17:00	R14-O-9 日本海溝の陸上アナログとしてのジュラ紀付加体プレート境界岩. 山口飛鳥・大塚宏徳・小嶋孝徳・福地里菜・谷川 亘・濱田洋平・氏家恒太郎
	17:15	R14-O-10 断層における炭質物ラマンスペクトル変化：犬山地域のチャート-碎屑岩シーケンス中に発達するスラストの例. 田畑皓輝・氏家恒太郎・瀨瀬佑衣・鍵 裕之
	17:30	R14-O-11 ラマンスペクトルを用いた炭質物断層摩擦発熱温度計の構築. 古市裕之・瀨瀬佑衣・氏家恒太郎・斎藤 翼・堤 昭人・ウォリス サイモン
	17:45	R14-O-12 付加体中シェードタキライトの三次元造解析と断層すべり詳細の復元. 濱田洋平・木村 学・亀田 純・山口飛鳥・浜橋真理・福地里菜・北村有迅・川崎令詞・岡本伸也

■ MEMO ■

■ MEMO ■

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、レギュラーセッション（R）のそれぞれに、ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。 ★印：ハイライト（本誌 p.(11) を参照）。（招待）：招待講演。（招待：国際）：学術交流協定を締結している海外関係学協会からの招待講演。